

令和4年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立明倫小学校

1 自己評価書

教育目標	自ら考え進んで実践する心豊かな子どもの育成 ～笑顔と感動、みんなの明倫小学校！～				
基本方針	凡事徹底～当たり前のことを当たり前に～				
本年度重点目標	1 安心・安全な学校づくり 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 学校全体で進める生徒指導の充実 4 特別支援教育の充実 5 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 6 教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。(一斉教授型の授業スタイルからの脱却) ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	③ 家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
・児童生徒アンケート			B		
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	B	
		・保護者アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○「自学グランプリ」に関する取組の充実など、全教職員が家庭学習と授業との連動を意識して取り組むことで、学習活動全体が充実してきている。</p> <p>○図書館の開放や育成会と連携した読み聞かせ、巡回文庫の利用など、読書習慣の定着に係る取組が充実してきている。保護者、児童ともに読書に関する質問項目で数値が向上した。これを継続していくことが課題である。</p> <p>○諸調査の分析結果から、各学年での授業改善が進んでいる。取組の成果を検証し、次年度につなげていく必要がある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○地域コーディネーターの協力の下、地域の方から取材したことや児童の学習成果を動画でやり取りをして学習を進めた。地域学習の充実のため、どのようなことが可能で、効果的であるかを更に検討していく必要がある。</p> <p>○ICT機器の効果的な活用方法について、運用の面で改善すべき点も見えてきている。タブレット端末を活用することによる学習効果について検討する必要がある。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			・児童生徒アンケート	B	
			・保護者アンケート	B	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	B
・児童生徒の姿					
<p>(成果と課題)</p> <p>○自己肯定感・自己有用感に関する数値が向上した。関連した取組を充実させた成果であると考えられる。</p> <p>○生徒指導主事を中心とし、生徒指導上の諸問題に対して組織的に対応を進めることができた。初期対応をしっかりと行い、児童の変容を継続的に見守ることが必要である。</p> <p>○学校運営協議会での熟議を通して、挨拶についての取組を地域、近隣の中学校とも連携して進めることができた。児童の挨拶も少しずつ改善しつつある。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○児童の自己肯定感、自己有用感を高めていくために、挨拶を始めとした人と人とのコミュニケーションを充実させていこう努める。</p> <p>○保護者への周知の方法について、ホームページ及び配信メッセージ、紙媒体でのお知らせ、直接参集する機会など、使い分けていこうしたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C B	C
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	C	C
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○超過勤務時間が80時間を超える教職員の割合は依然として高く、保護者も心配している。 ○業務改善につながるアイデアの提案やアンケート結果の共有等を行っているが、教職員一人一人の意識が変わらないうと、働き方改革につながりにくい。 ○初任者や講師を始めとする経験の浅い教職員への支援について、それぞれの立場で関わる事ができた。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○具体的な取組を一人一人が決めて行う形にしなければ掛け声だけに終わってしまうため、学年会や個人の単位でできることを決め、実行するような場を設けたい。 ○地域ボランティアの具体的な協力について、学校運営協議会でも検討し、充実させることで教職員の働き方改革につなげたい。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート	A		
<p>(成果と課題)</p> <p>○参集しての学校運営協議会を年間5回開催することができ、熟議を通して学校の課題についての改善方法を検討することができた。 ○学校運営協議会、地域学校協働活動がなぜ必要なのか、教職員への研修を深める必要がある。 ○広報活動(ホームページ、学校通信や学年通信などの取組や児童の姿の紹介)は、年間を通して保護者や地域からも評価が高かった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学校運営協議会で熟議した方向性を、職員会議や学年会ともつなげながら、今後も実現に向けて具体的な取組ができるようにしたい。 ○ホームページの更新について、記事の内容を充実させていくために、教職員全員への研修の場を設け、更にたくさんの方に見ていただけるようにしたい。 ○感染症拡大防止対策に万全を期して、可能な範囲で来校していただけるよう工夫を続けていきたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満